

2018年5月15日

各位

会社名 ソレイジア・ファーマ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 荒井好裕  
(コード番号：4597 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 CFO 管理本部長 宮下敏雄  
電話 03-5843-8049

## 「継続企業の前提に関する重要事象等」記載解消のお知らせ

当社は、本日公表の「2018年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)」において、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

当社グループは、医薬品等の研究開発とその販売を業としてしています。医薬品等の研究開発は多額の先行投資を要し、かつその期間は中長期に亘ることから、収益確保、投資資金回収には相当程度の期間を要するものとなります。これまで上市した開発品を有さないことから、事業全体としても先行投資の段階にあり、研究開発活動の失敗を原因としない損益計算上の損失計上、収支計算上の営業キャッシュ・フローマイナス計上、利益剰余金のマイナスという状況が継続的に生じています。

これまでの先行投資の結果として、当局より承認を得た開発品、当局への承認申請を果たした開発品、POC（プルーフオブコンセプト）が確認された開発品等、医薬品等の事業化プロセスの後期段階にある開発品ポートフォリオを保持するに至り、今後も製品開発、承認獲得および製品上市を通じ、更なる企業価値向上と中長期視点に基づく財務状況改善を図る計画にあります。

このうち、当社開発品 SP-03（販売名：エピシル<sup>®</sup> 口腔用液）の日本での事業化においては、2017年7月に当局承認を取得し、2018年4月に保険収載を完了しており、早期製品上市の蓋然性が相当程度に高まったものと認識しております。このことは、これまでの先行投資一辺倒であった財務状況から、一定の経常的な収益を計上しうる事業構造への転換点に到達したものと見込まれ、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象は現時点で存在せず、またそのような状況に現時点で該当しないと判断し、「2018年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)」において「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消することといたしました。

当社グループは今後も企業価値向上に努める所存であり、株主をはじめとするステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

# Solasia

注意事項：

このプレスリリースに記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、ソレイジアが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、ソレイジアとしてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、ソレイジアの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、このプレスリリースに含まれている医薬品又は医療機器（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。